

# 高退協ニュース

No.224  
2020年  
5月発行  
高知高等  
高知事務

〒780-0850

高知高等学校退職教職員協議会  
高知市丸の内2丁目1-10  
高知城ホール高知教組気付  
連絡先 TEL 088(822) 6822  
郵便振替口座0165052511893



## コロナ電話

高退協 会長 三谷 隆彦



「おまさんへコロナがきたかへ」と電話を掛けました。Virusは電話機を伝わりません。コロナの経済への影響を知りたくて、M氏に電話しますと、1918年のスペイン風邪の例を挙げて説明してくれました。また、草花に詳しいMさんにかけますと、庭に栽培しているのは西洋から来たパンジー、野に咲いているのは野

生のスミレであることを教えられました。時々路上ですれ違う近所の方と先日電話で話しますと、見かけによらず器量豊かなさにびっくりしました。やがて感染の心配がなくなり、密接、密閉、密接の三密が解除されますと、皆さんと食べて飲んでしゃべって濃厚接触できそうです。全国的に一斉休校は教育とは何か、学校は何をなすべきかを考える機会です。古代ギリシャでは隣国都市国家との戦争に勝つためにスパルタ教育をしました。戦前の日本の教育では忠孝愛国、鬼島米英、朝鮮人蔑視は当然でした。敗戦になると「アメリカの兵隊さんに好感を持たせました。現代の日本は表面上「人格の完成」です。しかし実際は、資本主義社会での利益優先が濃厚で、学力の比較競争で一部の

支配者が育ち、他は欠点あらさがしに目が向き、嫉妬心の強い人間になります。社会全体の動きへの関心がおろそかになります。人間と人間の関係、人間愛が希薄です。さらに副作用でいじめ、不登校がでます。障害者は生産の邪魔になるだけでなく介護に税金を使うのは無駄であるという考え方を拡大しますと、相模原殺傷事件を起こします。何時の時代でもこの国でも、国家はその時の政権維持強化のために教育に力を入れます。この際、子どもは野山海川で遊び、星を眺めながら人間の成長とは何か、戦争、平和、地球温暖化などを考えようでしょうか。勉強するのかもしれない。勉強するならば何をやるか。すべて各個人で決めます。他人に支配指図されるのではなく自立自律が民主主義の出番です。

**高退協に新加入 安岡一恵さん**

安岡一恵さんのあいさつ  
本日は退職を祝っていたいただきありがとうございます。組合の先生には酒井先生をはじめ大変お世話になりました。高知組「退職組合員を励まし新加入を祝う会」は延期となりましたので、会費予定されていたあいさつを掲載します。

調整ができなくなるので、人数を増やしてほしいと要望があった時のことです。当時は私も若く、経験も少なく、管理職に相談するのがやっと。でも管理職に相談してもなしのつぶて、その時、分金の先生が厨房の大変さをくみ取ってくれ、委員会との交渉ができました。交渉の場面では認められることもありましたが、組合の先生の援護射撃もあり、後日パートの職員さんがつきましました。この時は管理職から、どうしてパート職員がついたろうといわれたことが一番の思い出です。困った声には真摯に耳を傾けてくれる組合の先生方は、私にとって心強い存在でした。今も組合の先生方には感謝感謝の気持ちでいっぱいです。今日は本当にありがとうございます。

4月16日、ついに新型コロナウイルス感染に対する緊急事態宣言が7都府県に続き、全国に出された。全世界で猛威をふるう新型コロナウイルスに対して行動自粛を要請しているが、時すでに遅しの感がある。

中国武漢で新型コロナウイルスというウイルスが蔓延しているというニュースが流れ始めた2月初旬、東京の次女からマスクを送って欲しいと連絡が入った。早速、高知市東部のドラッグストアを何軒も回ったが、箱入りマスクは何処にもなく、袋入りを買ひ、アルコール入り除菌シートを買った。友人に何処にもないと話すと、一箱分けてもらうことができ、花粉症の為に箱ごと買っておいた物と一緒に送る。

2月中旬には、友人と京都の南座に海老蔵の公演を見に行ったが、いつもは中国人でごった返している四条河原町はガラガラであった。「高知初のコロナ感染者になったらどうする」という友人に「大丈夫と思う」と根拠のない自信で答える私。

活動を中止にした。市販のマスクがなければ、手作りでも手芸店に行った人、マスクのキットを求めた。それでも、百貨などで材料を手に入れミシンで手作りし、孫に送った。近々、アベノマスクが届くというが、給食マスクみたいで使いにくそう。予算を466億使うなら、一日でも早くワクチンの開発をしてほしいものである。

「明けない夜はない」という言葉がシェークスピアによるものであるというのは、コロナによって知ったのだが、この言葉を信じてみんまでコロナに立ち向かおう。

3月の3連休には、オリンピックの開催を気にして行動自粛を要請できず、感染拡大を招き、後手後手の対策という感否めない。新型コロナウイルスという目に見えない敵に日本中、世界中が必死で立ち向かっている時に、私も一主婦として家族や友人を守るべく奮闘している。

中国武漢で新型コロナウイルスというウイルスが蔓延しているというニュースが流れ始めた2月初旬、東京の次女からマスクを送って欲しいと連絡が入った。早速、高知市東部のドラッグストアを何軒も回ったが、箱入りマスクは何処にもなく、袋入りを買ひ、アルコール入り除菌シートを買った。友人に何処にもないと話すと、一箱分けてもらうことができ、花粉症の為に箱ごと買っておいた物と一緒に送る。

## コロナ奮闘記

上村文香

デマによりトイレレットペーパーもなくなっただけで、2月中旬には、友人と京都の南座に海老蔵の公演を見に行ったが、いつもは中国人でごった返している四条河原町はガラガラであった。「高知初のコロナ感染者になったらどうする」という友人に「大丈夫と思う」と根拠のない自信で答える私。

活動を中止にした。市販のマスクがなければ、手作りでも手芸店に行った人、マスクのキットを求めた。それでも、百貨などで材料を手に入れミシンで手作りし、孫に送った。近々、アベノマスクが届くというが、給食マスクみたいで使いにくそう。予算を466億使うなら、一日でも早くワクチンの開発をしてほしいものである。

全てのことが自粛、自粛で閉塞感はないが、家にいて楽しめることを、今は畑で作物を作り、庭には花をいっぱい植えて楽しんでいる。自然の中なら大丈夫だろうと鷺尾山や岡豊山から国分寺の四国道を歩いたりして、楽しんでいる。

哀悼  
河野 功 さん  
2020年2月5日逝去

浜口 尚也 さん  
2020年3月30日逝去

謹んでご冥福を  
お祈り申し上げます